

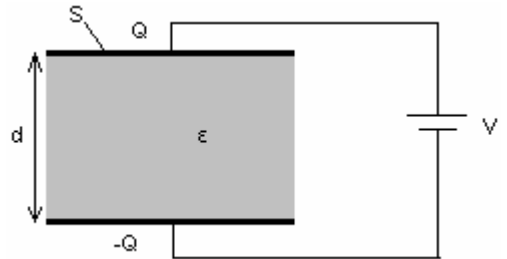
電磁気学 B 演習 第 1 回解答

1. 容量を C 、帯電電気を Q とすると、

$$C = \frac{\epsilon S}{d}, \quad Q = CV = \frac{\epsilon S}{d} V$$

帯電電気量 Q が変化する時変化量 ΔQ だけの電気量が流れる。

- a. V が変化する時: $\Delta Q = \frac{\epsilon S}{d} \Delta V$
 b. S が変化する時: $\Delta Q = \frac{\epsilon V}{d} \Delta S$
 c. d が変化する時: $\Delta Q = -\frac{\epsilon S V}{d^2} \Delta d$
 d. ϵ が変化する時: $\Delta Q = \frac{S V}{d} \Delta \epsilon$



2. 電束密度 D はどこでも一定であるから、両誘電体内の電界をそれぞれ E_1 、 E_2 とすると、

$$E_1 = \frac{D}{\epsilon_1}, \quad E_2 = \frac{D}{\epsilon_2}$$

境界面の電位を V' とすると、

$$V' - V_1 = E_1 d_1 = \frac{D d_1}{\epsilon_1}, \quad V_2 - V' = E_2 d_2 = \frac{D d_2}{\epsilon_2}$$

両式を整理して、

$$D = \frac{(V_2 - V_1) \epsilon_1 \epsilon_2}{\epsilon_2 d_1 + \epsilon_1 d_2}$$

電位 V_1 の極板から x の距離の点の電位 V は $0 \leq x \leq d_1$ で

$$V = V_1 + E_1 x = V_1 + \frac{D}{\epsilon_1} x = V_1 + \frac{(V_2 - V_1) \epsilon_2}{\epsilon_2 d_1 + \epsilon_1 d_2} x$$

$d_1 \leq x \leq d_1 + d_2$ で

$$V = V_2 - E_2 (d_1 + d_2 - x) = V_2 - \frac{D}{\epsilon_2} (d_1 + d_2 - x) = V_2 - \frac{(V_2 - V_1) \epsilon_1}{\epsilon_2 d_1 + \epsilon_1 d_2} (d_1 + d_2 - x)$$

3. 曲げられた後の電子の運動量の初めの入射方向の成分を $p_{//}$ 、それに垂直方向の成分を p_{\perp} とすれば、運動方程式は

$$\frac{dp_{\perp}}{dt} = qE$$

である。積分して電子の速さを v とすれば、

$$p_{\perp} = \frac{qEl}{v}$$

であるから、偏向角 θ_E は、

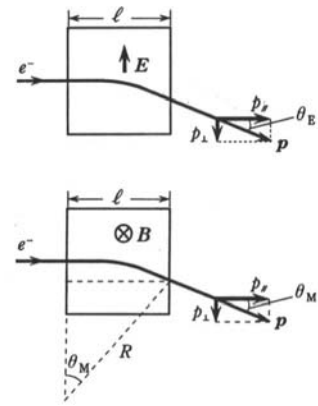
$$\tan \theta_E = \frac{p_{\perp}}{p} = \frac{qEl}{mv^2}$$

で与えられる。ここで入射方向には力が働いていないから、 $p_{\parallel} = mv$ であることを使った。

次に、磁場 B が働いている場合は、偏向器内の電子の円運動の半径は $R = mv / qB$ だから、偏向角 θ_M は、

$$\sin \theta_M = \frac{l}{R} = \frac{qBl}{mv}$$

で与えられる。



4. ローレンツ力 $qv_d B_y$ と静電場による力 qE_z の和がゼロになるという条件 $qv_d B_y + qE_z = 0$ から

$$E_z = -v_d B_y$$

一方で、電流密度は

$$J_x = I/S = nqv_d$$

これから v_d を消去すると

$$E_z = -\frac{IB_y}{nqS}$$

となる。これより a, b 間に発生するホール電圧 V_H は

$$V_H = E_z t = \frac{IB_y}{nqd} = \frac{0.1 \times 1}{5.0 \times 10^{17} \cdot 10^6 \cdot 1.6 \times 10^{-19} \cdot 10 \times 10^{-6}} = 0.125 [V]$$

※単位に注意すること。ここではメートルにあわせた。